

第2回丸山地区学校再編検討委員会 会議録

日時 平成24年1月26日(木) 午後7時
会場 丸山公民館 中会議室
出席委員 22名
欠席 近藤委員
傍聴 8名

1. 開会

2. 委員長あいさつ

こんばんは。大変寒い中をお集まりいただきましてありがとうございます。4日ほど前には房日新聞で、丸山にも大変深い関係がある記事が載っていました。私どもの責任の大きさを特に強く感じるところでございます。今日から段々この検討委員会の皆さん方と一緒に検討していく中で、より具体的に進んでいくかと思えます。大変難しい課題ではあるかと思えますが、皆様方と色々と検討する中でより良い方向性が求めていければと感じておりますので、皆様方の前向きな御意見あるいは御質問をよろしくお願いいたします。

3. 教育長あいさつ

こんばんは。まず冒頭にお詫びいたします。今日これから提案する内容ですが、今委員長さんも申されましたが房日新聞に出てしまいました。この提案は、1週間前の第2回和田地区学校再編検討委員会で提案させていただきました。丸山地区は1週間後の今日ということで、房日新聞の記者にも私どもが皆様方に提案するより前に新聞で内容を知るとは、非常に気持ちの問題として良い事ではないので、1週間待って丸山地区の会議を取材して記事にしてもらいたいと強くお願いしました。しかし、知ったからには書かなくてはいけない。それが新聞記者だということにして、皆様方には私どもが直接お話しする前に今日提案する内容が目に入ってしまう、非常に戸惑いや不快な思いをさせたかと思えますが、そういった事情があることで御了解いただければと思います。今日は前回の会議以降に教育委員会議で決まった内容で、これまでありました幼稚園と小中学校の再編計画を若干修正いたしました。また、幼保一体化計画も出来ましたので、まず報告をいたします。それに基づきまして、具体的な丸山地区の幼稚園小中学校の再編計画について提案いたします。私どもは、少子化の中でどれだけ子供たちにより良い教育環境を維持出来るのか考えております。色々な条件がありますが全ての条件を満たしてやっていくことが出来ないのが、南房総市の状況であると感じております。厳しい選択が迫られる状況の中で是非今日も積極的な意見を賜りたいと考えておりますのでよろしくお願いしたいと思います。

4. 報告

第1回会議検討結果報告について

質疑等特になし

事務局 前回の会議にて市場付近の海拔の質問がありましたので、調べさせていただきました。市場の交差点で32.9mです。

5. 議事

事務局 議長委任「傍聴人の入場よろしいでしょうか。」

委員長 許可します。

(傍聴人入場)

委員長 第1号「南房総市立幼稚園及び小中学校再編計画について」を議題といたします。事務局より説明します。

事務局 平成23年12月に改正された南房総市立幼稚園及び小中学校再編計画を説明。

委員長 只今、事務局から市内全体の再編計画について説明がありました。何か質問はありますか。

委員 前回会議の時も再編の説明がありましたが、その時は丸山地区だけのよう
な印象を私は受けたのですが、その違いは。経緯など伺いたい。

教育長 前回は修正した観点ですが、当初立てました計画よりも子供たちの減り方
が思ったよりも大きい。その当時は第3期で中学校の予定でしたが、出来る
だけ早くなどの保護者等の要望もありましたので、子供の数の減り方に合わ
せて再編計画を早めて行かなくてはとまず大きな事柄があります。2つ目に
通園及び通学方法で、南房総市において新たな学校配置を設定した場合は、
文部科学省が標準とする距離を超えた通学区になることが想定されます。小
学校においては4km以内、中学校においては概ね6km以内。それが昭和
31年に作られ、その当時の基準が、その通りきていました。

私どもの再編計画が作られたころの平成20年ごろの文部科学省の方の教育
審議会等の作業部会での議論では、交通機関等が発達していますのでキロ
数で表すのは、時代に合わず、道路状況等が良くなってきているので、通学
時間とかを考慮して学区を考えていくべきではないか、という議論がなされ
始めております。そこでは通学時間概ね1時間程度を考えてはいいのではな
いかというような議論もされてきております。従いまして、私どもとしまし
ても文部科学省で議論がされている概ね通学時間1時間程度を目安にして、
という判断に立ったのが大きく言えば2つ目になってくるかと思えます。そ
れともう一点ですが、最初の方の計画の段階では、小中一貫校というのが極
めて稀な状況にあったわけですが、その全国的に小中一貫校という考え方、
あるいは小中一貫校という教育の仕方というものがだいぶ普及してきており
ます。三芳小中学校でも研究に取り組むようにしてきたわけですが、小中一
貫校の考え方も取り入れて再編計画を進めるべきではないかということで、

先ほど御説明いたしましたように修正いたしました。ただ、修正いたしましたが富浦地区、富山地区、白浜地区につきましては、当初の計画で再編をしてスタートをしておりますので、これらの学校については再編の結果を踏襲するような話になってくるかと思えます。そして幼稚園と保育園の一体化を進めていくような視点も入ってきて、それに合わせて小学校の再編も考えたいと、この辺が大きく変わってきた点であります。

委員長 今の説明でいかがでしょうか。

委員 まだよく理解できない。この再編計画は大分前からあったわけですね。その時には保護者の方には丸山和田地区の4校を一緒にするという話はしてあるわけですか。

教育長 具体的に4校を1校にするとかではなく、当初の計画により、第1期として富浦・富山・白浜地区は、小学校の統合という形で進んできております。千倉・丸山・和田地区については、第2期として23年度から会議を進めていく。更に26年度から第3期として中学校の再編を協議していくとのことでしたが、1期地区の再編の進み具合を見ていまして、千倉・和田・丸山あるいは中学校の保護者の方から、出来るだけ早く推進してほしいというようなお話も私ども受けておりますので、この全体の再編計画で策定いたしました。

委員長 御理解いただけましたか。

委員 はい。

委員 前回までは中学の統合の話だけで、小学校の統合というのも固まっていたのはなかった。しかし、考えはあったということですか。

教育長 まだこの大枠の再編計画が出来ていませんでしたので、そこまで詳細な案というものは詰めていません。この計画が出来た後に最終的に調整して今日の第2号議案で提案したいと思っております。

委員 小中一貫校についてですが、将来的には全て小中一貫でいきたいということですか。

教育長 基本的には小中一貫教育を展開していきたいと思っております。中学校区単位で、定期的に校長先生同士や教務主任までを含めて会議を開いていただき、一致した考え方で小学校6年間、中学校3年間、一貫した教育をしたいという考え方は持っております。具体的には同じ施設の中に小中学校が同居する、いわゆる小中一体型の小中一貫教育、そういった形もあります。今、三芳小中学校で、出来るだけ交流して、先生が小学校に行くとか生徒の方が行くとかそういったような形で連携型、分離型の一貫校という研究もしております。あとは、富浦小中のように少し離れて、なかなか生徒が行ったり来たりするのは難しいけど可能な限り小中一貫を行えないかという検討も内部でしてお

ります。

委員の方からありましたが、最終的には可能な限り小中一貫教育というものは展開していきたいと考えております。

委員

幼稚園小学校配置計画のところ、丸山和田地区で4校を半数以下になるとあるが、この別紙の方との違うはなぜか。

事務局

これにつきましては、小学校においては、再編により1学年当たり複数学級規模が目指せる地理的要素を持つ地区においては、3校以上の単位で再編することも考慮すると考えております。ですから、半数以下という表現で記載しております。ここでは1校とは示しておりませんが、半数以下で検討するという御理解いただきたいと思っております。

今の質問は2号議案の方で、後ほど、こちらからの提案ということで説明させていただきます。

委員

先ほどもお答えしていただいた内容ですが、16ページの小中一貫教育、幼保一体化の文章の中で富山地区においては小中一貫教育実施を推進、三芳地区においては研究成果を基に連携型一貫教育、その他の地域においては地域の特色にあった一貫教育を推進する。地域の特色にあった一貫教育また三芳地区においてなぜ採用されるのかというのをもう少し詳しく説明していただくと、特に地域の特色にあった一貫教育、場所によっては建設をせずに連携型を推進するという意味合いがあるのですよね。

教育長

富山、富浦、三芳地区においても中学校の統合というのは考えました。

例えば富浦と富山地区の中学校の統合を考えますと通学に大きな障害があるということで、富浦と富山を統合して、中間に校舎建設というのは、土地がありませんのでどちらかに行くようになる。そうしますと山あい道路が縦には走っていて横にはないような状況にあります。今日の第2号議案の3枚目のところにカラー刷りの地図があるかと思いますが、こういったものを検討いたしまして富山中学校区と富浦中学校区の統合した場合のことを考えましても、通学時間等、様々な面で非常に負担が大きくなるのが想定されます。ですから両地区の中学校統合という考えは修正せざるを得ません。そうなりますと選択肢しまして、小中一貫校が良いのではないかという結論に至っております。

三芳中学校につきましても今後も小中一貫校か、どこかの中学校と統合していくのか。それは今後結論を出さなければいけない状況にあるかと思っております。ただ、今の段階では三芳小・中学校については、施設分離型の連携型の小中一貫教育を展開していくという考え方になっております。地域の特色と申し上げましたが、具体的には地理的な状況、あるいは生活圏や人の動きなどを考えて、最終的にはそのように判断いたしております。

委員長 他に質疑が無いようですので、計画にはまだ質問したい点もあるかと思いますが、今後丸山地区といたしましても再編に向けての協議をさらに進めていきますのでよろしくお願いいたします。

次に第2号議案「丸山地区の幼稚園及び小中学校の再編（案）について」を議題といたします。事務局より説明をお願いいたします。

事務局 それでは、第2号の丸山地区幼稚園及び小中学校の再編（案）について説明をさせていただきます。これは南房総市再編案といたしまして、今回提案させていただきます。

第1は、幼稚園。丸山地区及び和田地区で、1園に再編する。なお、和田地区内（南三原小学校区）に幼保一体化施設を検討する。理由としまして、今回の市再編案に伴いまして小学校と同じ敷地内等で考えていければ良いのではと考えております。

第2は、小学校。丸山地区及び和田地区で、1校に再編する。なお、和田地区内（南三原小学校区）に新校舎を検討する。理由としまして、両地区の4校の小学校の現況です。丸山地区の丸小学校の海拔等は43.9mです。校舎等が昭和38年建設であり、その後増築等を重ねている現状です。平成3年に大規模改造等しておりますが、その後20年以上経過という現状であります。それから南小学校についてですが、海拔が12.4です。校舎等は昭和44年建築であり、その後平成4年に大規模改造工事、平成9年に耐震補強工事を実施しております。丸山地区の小学校は大規模改造等の工事は行っておりますが、築年数等が大分経過しており、いずれ近い将来に建て替え等も検討する必要があると考えております。それから和田地区の和田小学校については、海拔は16.8mです。校舎等は昭和45年に建築されており、平成3年に大規模改造工事が実施されておりますが、耐震性が保たれていない状況です。南三原小学校については、海拔は7.8mと管内では一番低い状況です。校舎等は昭和51年に建築され、大規模改造工事を平成4年に実施しております。和田地区の小学校においても、早急に安心安全に配慮した学校等を検討する必要があると考えております。

市といたしましては、両地域は、この再編により1学年複数学級規模を目指すことが地理的に可能な地区だと考えております。ですから今回このような提案をさせていただきました。

第3に中学校。丸山中学校及び和田中学校を統合する。校舎は、丸山中学校を使用する。海拔は丸山中が29.7m、和田中が9.3mです。校舎は平成17年、平成16年に完成しております。丸山中の特色は、野球場とグラウンド等が別々になっていること、また、教科専用教室等を採用しているのが特徴です。海拔等を考えた時に少しでも子供たちの安心安全のため、また

1 学年複数学級規模が目指せるのかと考えております。2 枚目は、丸山地区和田地区の児童推移予想表です。3 枚目は、市内の小学校中学校の配置図です。配置図の中では隣接している中学校との距離を記載しており、実線は小学校から半径 2 k m。点線は中学校から半径 3 k m で示しております。丸山地区及び和田地区の小中学校は、各学校間が比較的近いと思われます。丸小と南小より、南小と南三原小の方が直線で比較すると近いという現状でありますので、今回市からの提案とさせていただきます。

教育長 捕捉いたします。先ほど小中一貫校あるいは統合中学校の話がありましたが、もう 1 つの要素といたしまして、学級数により、教員の配置数が決まってくる。普通学級が 3、特別支援学級が 1 の 4 学級ですと教員の配置は 8 人となります。中学校は、10 教科展開していますが、教員の配置は 8 人です。8 人で 10 教科ですから、どの教科を講師にしようとかそういうような状況です。しかし、クラス数が増えてきますと配置される人数も多くなってきますので、職員数の面は余裕が出てきます。ですから、中学校の方向としましては、学級数を多くしていき、多くの教員を獲得していく方法とそれが出来ない場合は、小中一貫校という形で、例えば、音楽は中学では 1 週間で 3 学年教えても 5 時間くらいです。そうすると、臨時免許証をとりまして、他の教科を教えたりします。これが小中一貫校になりますと、小学校 4 年生以上の音楽の時間を 2 時間ずつ持つようなことも可能になって来ます。英語や体育も同じ。小学校中学校一緒にすることにより、教員がより活かされてくる。ですから、学級数が減ってきて教員配置が非常に厳しくなっている状況で、小中一貫校にしていくことは非常に有効な方法だと思っております。

委員長 他に質疑等ありますか。

委員 幼稚園と小学校の再編に関するところで、南三原小学校区に施設を検討するとなっているが、具体的な場所の案はあるのか。

委員 この案に関して、更なる再編として小中一貫というものも考えているのか。例えば、小中学校として 1 校にする考えもあるのか。

教育長 具体的な場所については考えておりません。南三原小学校区で検討すると皆さんの御意見がまとまってから、具体的な場所は検討していきたいと考えております。また、私どもが提案したのは、別々に考えられるような形になっていますが、両方の地区で、幼保・小学校だけではなく、中学校も一緒の方が良いだろうという方向になれば、そういう方向で検討していくことになると思います。

委員 丸山地区ではないということですか。

教育長 ただ私どもの方は、今の財政状況から言って和田中学校は建物としては勿

体ないですが、海拔10m以下のところに、新しい学校としてこれから30年40年使っていこうとすることは、これはお金には変えられないものが出てきます。ただ丸山中学校について、使うのを止めて別に新しく中学校も建てるとなるとこれもまたなかなか御理解をいただくのは非常に難しいと思います。

委員 この丸山地区の会議の前に和田地区でも会議があったということですが、その時に皆さんどんな話をされていたのか。

教育長 正直申し上げますと皆さん方は房日新聞で内容を知って、それから1週間近く経っている。しかし、和田地区の方については、全く寝耳に水といいますか、まさか4つの小学校が1つになることまで全く想定されていなかったようで、まとまった意見をその場で発言するのは難しい状況にあったかなというのが、私が感じたところです。

委員 中学校の編成については、メリットが大きいと思うのですが、小学校については何故4校を1校にする案が出来たのか、もう少し詳しく聞いてみたい。あと南幼稚園については、18年度に竣工し、それを使わずに、他のところに建てるという考えを聞きたい。

教育長 正直申しますと震災が大きかったと思っております。今までは児童生徒数を想定しながら考えていましたが、震災により新たに海拔という要素が入ってきました。地震対策を含めると、私どもの想定が崩れまして、現在の4つの小学校は、統合校舎としては、全て適さないという判断をしております。従いまして、別に小学校統合しますと2つ建てなくてはいけません。ただ2つ建てたとしても子供の数から言って果たしてそれが教育活動を行っていくのに可能性のある規模なのか、色々な状況を考えますと更に大きくして展開していくことも可能ではないかという判断で更に1校という考えになっております。

委員 今の南小、幼稚園の海拔では低すぎるということ。別々に小学校2校作っても子供の数を考えた時に、すぐに統合の話が出てきてしまうということですか。

教育長 南幼稚園を建設した時は海拔という要素は全く入っていませんでした。海拔が12mちょっとだと思えますので、やはり幼稚園・小学校校舎のある場所として、適していないと判断しております。その後の活用はまた考えていく必要があると思えますが、南小、南幼稚園も含めて新たなところに建てるようになりますと、規模を考えてより可能性がある方を考えた方がいいと判断しています。

委員 南三原小学校区の建設可能な場所で、一番高いところの海拔は大体何メートルなのか。

- 教育長 何処が候補地というわけではないですが、候補地を選ぶ目安としまして、私どもは海拔15m以上の高さがあるところで考えていきたいと思っています。
- 委員 南三原小学校区で15m以上のところがあるのか。
- 教育長 はい。
- 委員 丸山中だと27.9mあり、より安全だと思うが、丸山中周辺での新校舎建設という案にはならなかったのか。
- 教育長 旧町にこだわるわけではありませんが、やはり中学校が旧丸山地区なら、統合の小学校は和田地区と考えるのが一般的な考え方だと思っております。ですから、地区の皆さん方が地区の垣根を越えて新しい学校で考えていこうという方向でしたら、選択肢は広がってくると思っております。あくまでも私どもが提案したものは叩き台ですので、皆さんの意見、あるいは地区の皆さん方の意見をいただいて、定まるところに定めていきたいというのが基本的な考え方です。
- 委員長 よろしいですか。
- 委員 はい。
- 委員 仮に丸山中学校に小学校中学校一緒にすることは、人数的に無理ですか。
- 教育長 今の建物では手詰まりですので、小学校部分を建て増しすることになると思います。ただ、小学校も中学校も丸山地区となってくると和田地区の方が難しくなると思います。ただ、今のままでは無理ですので、どこに建てるかは別として小学校部分は新しい敷地を用意して建てなくてはいけないと思っています。
- 委員 そうなると中学校はいいと思うのですが、幼小中の一貫教育という部分で考えますと、まとまった学校を作る考えで行かないといけないと思うのですが。仮に中学が丸山、小学校は和田に建てた場合、今度は先生方の移動の問題が生じるわけですね。丸山から和田、和田から丸山とロスを考えると、どこか一箇所建てたらどうかと思いますがいかがでしょうか。
- 教育長 中学校が統合し、小学校4校が1校に統合すると、教員の配置等にはかなり余裕が出てくると思います。その場合には、中学校の教員が小学校に行くことはそんなにしないで済む人的余裕は出てくると思っております。
- 一貫した考え方については、今丸山中学校区でやっていますように定期的に先生が集まって、基本的な考え方などについて常に協議しながら進めていくやり方もあると思います。ただ可能性として御指摘のような考え方はありますけど、私どもはそれを考えているわけじゃないということで御理解いただきたいと思っています。
- 委員 この先この人口の推移を見ますと、3分の1くらいになる時代が来るわけ

です。そういう部分も踏まえて考えれば先を見て、まとまればいいかと思えます。

委員 我々親として子供は近いところへ通わせたい。そうすれば何かあってもすぐそばに行ける。その地域もある程度わかっているから子供たちも安心して学校に行ける。そう判断すると、中学は部活の選択肢なども広がるから2つを1つにしても範囲の内かなと思います。

しかし、小学校は4つを2つにして、丸山と和田で小学校は1校ずつ残したらいいと私は思います。

委員長 親の立場からそういった考え方もあるということですね。

委員 基本的に校舎を建てて、震災などが無ければ何年使えますか。どのくらいで計算されているのですか。私たちはその何十年後の子供たちの数まで考えなくてはいけない。それこそ南幼稚園は勿体ない。税金の無駄遣いはいけないと思う。だから、そういう意味では大事な会議だと思います。

高校の先生から子供の基礎学力を高めて下さいと言われると聞いたことがあります。そういう意味では勉強をさせられる環境を作って欲しい。これは私も保護者ですが、そういう意見もあるってことでお願いしたいです。校舎の話ですが、住民感情もあるし私も丸山ですがそれは和田に建ててあげるべきだと思います。ただそれはその時に話をする中で決めていけばいい。岩糸の隣の沼も南三原学区ですから丸山中にも自転車ですぐ行ける距離だと思いますので、そういうようなことを考えて欲しいと思います。

委員 先ほど、通学にバスで1時間くらいとお話がありましたが、子供が朝1時間早くするのは、かなり大変だと思います。そういうことも考えていただきたい。また、学童を預かっていると思いますが、丸山でも丸と南では形態が違うように、和田も違うと思いますが。

教育長 学童保育についても市でやっていくつもりでいます。民設民営とか色々な形やっていますが、何年か先には市内全部の学童保育についても市でやっていく問題かと考えております。ただ、無理にやっていくわけではなく、既にやっている方の御意見を尊重しながら常に話し合いながらやっていく。最終的には市の責任で学童保育もやっていく問題かと考えています。また、通学時間の話で、1時間までだったらとことんやるわけではありませんので。

事務局 通学バスの話が出ましたので、実際自家用車で計ってみました。丸小学区の大井細田バス停から市場の交差点を經由して南三原小学校までを通学するとした場合、距離は14.2kmで走行時間は約22分。一方で同じく大井細田バス停から和田小学区のかすの木經由で南三原小学校までの通学距離は10kmで走行時間は約16分でした。

富山地区では来年度より通学バスを計画しておりまして、最長で11.7

k m。今の通学支援の想定で、始発は7時15分となっておりますが、概ね25分から30分くらいで約10 kmの区間を走っています。

教育長 富山中と富浦中の統合を断念したのは今のような状況がありまして、1時間と考えると可能ですが、マイナス面も非常に大きいということで諦めております。ですから、今回私どもが提案した内容につきましては、概ねバスで30分程度の通学が可能かと思ひ提案しております。

委員長 皆さん方から質問や意見を色々な角度からいただいたような気がします。示された再編案について、いかがでしょうか。他に質問ありますか。

委員 海拔を15 m以上と設定されていますが、それは何を根拠に15 mですか。
教育長 明確な根拠はありませんが15 mの高さがあり、更に2階3階建てを建てれば、津波の被害はかなり防げると考えています。

委員 プレートのずれ方では壊滅的な被害が出ると、千倉の方は大変な被害になるのではと言っている人います。会社の人ですが、そのような技術に長けている人が言っていることなので、結構気になっています。それで15 mということでしたので、評論家や大学の先生などに意見を聞いたのかと思った。

教育長 そういうようなものはないです。

委員 2クラスになる人数は何人ですか。丸山中と和田中が統合すると原則2クラスにしかならないと思いますが、ホームベースと呼ばれている丸山中の教室は、非常に狭いという印象があります。現職の先生にお聞きします。平成23年度2年生33名で1クラスですが、あと何人ぐらい余裕があるのか教えてもらいたい。

事務局 学級編成ですが基本40人学級となっておりますので、41人いると2クラスになります。これは全国どこでもこの形です。ただ、現在千葉県制度といたしまして、例えば小学校の1年生、中学の1年生では35人学級が良いということになっていきますので36人いると18人ずつの2クラスで分ける学年もあります。学年によってその人数も少しずつ違いますので、35人学級から40人学級の間で動きます。学校によって同じような人数なのに2クラスになっていたり、1クラスになっていたりしますが、現状には40人学級と教えてもらった方がいいかと思ひます。

丸山中 丸山中学校のホームベースと言われている普通教室ですが、個人の机と椅子ではなく大きな机を使っている。基本的にそこで授業はやっていませんが、ホームベースは36人入ります。

委員 ホームベース主体で考えると36人×2クラスで72人が大体の目安の最大人数と理解してよろしいですね。ありがとうございました。

委員長 再編案について、いろんな条件を様々な角度からお話をいただいているわけですが、他にございませんか。

委員 統合したら、学校給食は丸山中学校で小学校分も全部作るのですか。

事務局 現在丸山給食センターが丸山中学校に併設されておりますが、その基本的最大配食数が約500食です。約と言っているのは、中学生が食べる分量と小学校の低学年あるいは幼稚園の食べる分量が違いますので、低学年の方が多ければもう少し作ることには可能になります。そうしますと今提案しています小中学校全部を作った場合500食では賅いきれません。ですから、やり方はこれから検討しなければなりません。例えば丸山中学校へ中学校を統合したのであれば中学校は全部丸山給食センターで賅うが、南三原小学区に検討している小学校、幼稚園については、和田から配食するとか朝夷から配食するとか何らかの方法を検討しなければならないと思います。ただ先ほど、委員さんからも意見があったように、小学校は2校となると、やり方も変わってくるので、統合された学校のサイズに応じて現在市内で持っている4つの給食センターで何らかの配送方法を考えて提供していくことになっていくかと思えます。

委員長 色々と学校の統合で発生する問題があると思えます。他に質疑はよろしいですか。

委員 幼保一体化ということで、保育園も一体化した施設を造るわけですね。その場合、そちらの資料の0歳から4歳までの人数を見ると在宅で見ている人が多いですね。そうすると在宅で見ている方々へ幼保一体化の施設を作った場合のアンケートやデータがあれば、お聞きしたいと思います。

事務局 幼保一体化運営のことですが、保育所で基本的に多いのは、0歳児から3歳児までの保育に欠けるお子さんという言い方をしますが、保護者の方が仕事に就いていたりなど昼間家庭で保育することが出来ないお子さんが、0歳児から3歳児までの間入っているのが南房総市の概ねの状況です。そうなると問題となってくるのが、保護者が仕事をしているようなお子さんで幼稚園に預けると9時から2時までしか預かりませんので、朝晩が困るというような問題が起きて、現状では各地域で学童保育、本来小学生をお預かりする施設に入れて預かり保育をやっているのが現状となっています。

今回幼保一体化ということで、一体化で運営できる施設が建てること出来たら、そこは0歳児から5歳児まで全部お預かり出来る施設にしていきたい。その中で4・5歳児の9時から2時については、これまで培われてきました幼稚園教育をきちんと確保する。朝と夕方は預かりも可能にする。その時には出来るだけ御希望に応じてお預かりする体制は整えていきたい。また、その幼保一体化園の中で0歳児から5歳児までお預かりして小学校へ一貫した教育理念できちんと指導して小学校入学に送り込んでいくことが出来るようなそういう施設を作っていきたいと考えております。

付け加えますと建物が出来ない場合でも近隣の保育園と幼稚園で協力をしまして、今申し上げた内容を極力展開できるように現在研究し、そういった運営も進めていきたいと思っております。

アンケートにつきましては、市内全域ではないのですが、富山地区でアンケートを取らせていただきました。今後、富山幼稚園では預かり保育を朝晩出来ないかということで現在私ども協議をして準備をしているところです。

教育長 基本的には整備していきますが、あくまでも預けるか預けないかは親の判断でやっていきたいと思っております。ですから、親御さんの事情が変われば預けるというような状況になってくると思っております。

委員 都会では待機児童が問題になっていますが、南房総市ではどうですか。

事務局 現状では保育所に希望がある方は、全員入れるような状況です。どちらかというと、4・5歳児の幼稚園児の朝晩の預かりの部分が本市では課題になっている状況です。

委員長 色々な角度から御意見いただきましたが、今日事務局から提案されました再編案については、今日の段階では検討委員会としてのまとめは本当に難しいと思っておりますので、今後も引き続き検討していきたいと思っております。

委員 先ほど出ました海拔15mの根拠について、データなどを出してもらえれば更に安心出来るかなと思っております。

委員長 今日色々検討しましたが残ったものもいろいろあるかなと思っております。これらは次回の会議に回すということで御理解いただけますか。

この市から提案されました再編案については、各種団体の方々にも何かの機会にお話でもしていただいて、次回の会議に是非こう言った意見もあったなど、御提案していただければありがたいです。是非そのような方向で御協力いただきたいと思います。それでは次に第3号「第3回検討委員会の日程について」を議題といたします。事務局から説明があります。

事務局 第3回検討委員会の日程について。私どもから第2号で再編案を提案させていただきました。委員の皆様方が、この内容再編案を協議検討するのに、どのくらいの時間が必要になるのか分かりませんが、事務局といたしまして、和田地区が年度内に次回会議を行うことで調整しております。出来れば丸山地区におかれましてもこの3月末までに次回を開催出来ればと考えておりますが、いかがでしょうか。

委員長 只今、事務局の方から次の日程を3月末までに第3回の検討委員会を設定したいとのことです。特に皆さん異論が無いようですので3月に会議日程を設定したいと思っております。色々な行事も3月はありますね。事務局で目安などありますか。

事務局 基本的には各種団体の集まりも3月にあろうかと思っております。そう言った中

で、私どもにおいても極力3月の後半で設定していきたいと考えておりますので、そのような状況でご検討いただければと思っております。

委員

和田地区の開催日が決まりましたら我々にも是非教えていただきたい。そのようにしていただけるのなら私どもも傍聴に行けるかなと考えています。同じように丸山地区の会議がこのような日程でやるよっていう形で傍聴に来ていただければ、おそらく今の日程だと今後どうなるか分からないですが、両地区で一緒に会議することになるのか、それとも個別で行くのかわかりませんが、お互いに傍聴できる機会を持てるようにしていただきたいです。

教育長

ホームページに載りますが、それとは別に丸山地区の皆さん方には和田地区の日程はお知らせいたします。ただ和田地区の日程につきましては委員長さんの方と相談して了解をいただいてからお知らせするという事でよろしいですか。そういう形で考えておきます。

委員長

本日の議事は終了いたします。御協力ありがとうございました。

事務局

それでは以上で第2回の学校再編検討委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

(傍聴人退場)

閉会